

# 學校組織各分享





**総務企画部**

- 平成23年度 総務企画部設置  
学校評価、生徒による授業アンケートの導入  
ホームページ作成、電子掲示板の管理  
生徒主導の学校説明会を導入、企画・運営を行う
- 平成24年度 学校評価、各種アンケートを通じた教育活動の点検と効果的改善に向けた提言
- 平成25年度 学習状況調査の実施・分析に基づいた教育体制の整備
- 平成26年度 スーパーグローバルハイスクール (SGH) の取組を通じた教育改善の推進
- 平成27年度 学期制に伴う行事の精選と新たな教育体制構築に向けた取組の推進  
英語によるホームページ作成
- 平成28年度 創立120周年記念事業の推進

〈10年間の歩み〉

式典等の企画・立案

入学式や卒業式の企画・運営を担当している。  
合格者説明会の企画・運営を担当している。  
平成28年度には、創立120周年記念事業式典の計画・実施。

学校評価、各種アンケートの実施

学校評価の実施を通じて、各分掌、各学年が教育活動の目標設定と点検を行い、課題の発見から改善へとつなげられるような機会を設けている。

さらに、教員の授業改善、指導力向上につながるよう、生徒による授業アンケートも年に2回実施し取りまとめを担当している。保護者アンケートの実施・分析も担当。



**奈良から世界へ**

**本校のあゆみ**  
 明治29年 4月 奈良県尋常中学校敬儀分校として開校  
 明治32年 4月 奈良県敬儀中学校となる  
 昭和8年 10月 現在の本校校舎完成  
 昭和23年 9月 学校改革により奈良県立敬儀高等学校となる  
 平成16年 4月 耳成高校と統合し、奈良県立敬儀高等学校となる  
 平成18年 10月 創立110周年記念式典挙行  
 平成26年 4月 文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受ける  
 使命・実行力を持つリーダーの育成

**学び磨く**  
 基礎学力、思考力と創造力を身につけ、世界へはばけ！

第1学年 第2学年 第3学年  
**全員共通** 文型 理型 理Ⅰ 理Ⅱ

**さらに究める**  
 基礎学力の定着のために  
 基礎学力の定着と応用力の養成を図り、  
 進路選択に応じた

	1年	2年	3年
基礎学力の定着のために	補充講座	補充講座	
基礎学力の定着と応用力の養成を図り、	夏期講習	夏期講習	夏期講習
進路選択に応じた		秋期講習	夏期講習
		冬期講習	土曜講座

**未来へ合格状況** (平成27年 4月)

国立大学合格者数 218 (入学者数264)		私立大学合格者数 1085 (入学者数206)	
北海道	20	奈良県立	21
東北	41	国士館	11
関東	111	国士館	11
中部	111	国士館	11
近畿	111	国士館	11
中国	22	国士館	11
四国	22	国士館	11
九州	22	国士館	11
計	218	計	1085



### 広報活動の推進

本校の学習活動、行事、部活動の様子を「進化する伝統」と題したリーフレットを通じて発信している。新聞等への広報活動にも力を入れており、魅力ある進学校としての取組を県民に伝えている。

また、中学生を対象とした学校説明会の企画と運営を担当。生徒会や吹奏楽部、音楽部をはじめとした各部の協力を得て、生徒主体の運営となるよう工夫している。そのため、説明がわかりやすく活気のある説明会であるという声が多く、受験生とその保護者より好評を博している。



学校説明会



部活動見学

### 情報管理

ホームページは、より多くの方々に本校の魅力を知っていただけるよう、本校の特徴が際立つように構成している。また、SGHの指定を受けて以来、英語によるホームページを作成し、海外交流校や国内留学生にも本校の情報を提供している。

校内電子掲示板の管理も行っており、各種連絡、学校行事の様子、部活動の活動報告など本校の取組に関する情報を生徒や職員に提供している。このことにより、生徒が本校の現状を知るとともに関心をより深め、敵高の一員であるという自覚を高める一助となっている。



**S** GH企画部

- 平成25年度 文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）への申請に向けてプロジェクトチームが作られ、研究開発内容について議論し、申請を提出。
- 平成26年度 全国の56の高校とともに、スーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定される。第1学年が一期生として、「グローバル国語」「グローバル英語」「現代へのあゆみ」「SFU」などの学校設定科目の履修をスタートさせる。
- 平成27年度 第2学年の学校設定科目として「現代の課題」の履修がスタート。2月に第1学年と第2学年で「SGH研究発表会」を実施。
- 平成28年度 第3学年の学校設定科目として「未来創造」の履修がスタート。7月に「第1回未来創造会議」を実施。

**研究開発の導入と概要**

急速に進むグローバル化に対応するため、文部科学省が平成26年度から始めたスーパーグローバルハイスクール（SGH）のプロジェクトは、社会課題に対する関心や深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力などの素養を身に付け、将来のグローバル・リーダーを育成するというものである。平成28年度現在、全国で123校が指定され、本校では「奈良発！“未来”を“創造”するグローバル・リーダー育成プログラム」という内容で使命感・実行力をもつリーダー育成をめざし、カリキュラム開発や大学、企業、国際機関等との連携を図った実践活動に取り組んでいる。

本校の取組は平成26年度の入学生以降全員を対象に実施し、いくつかの学校設定科目を設置して各自が実施する課題研究の基礎と外国語も含めたコミュニケーション力の向上を図っている。第1学年の「グローバル国語」及び全学年の「グローバル英語」では、インタビューやディベート、ディスカッションなどを通してコミュニケーション能力の充実を図り、また第1学年の「現代へのあゆみ」及び第2学年の「現代の課題」では、世界の中の日本という視点から近現代史を学ぶと同時に、その過程の中で生み出されてきたグローバルな社会課題を踏まえて生徒それぞれが興味をもつ課題研究に取り組み、その内容を発表、討論しあうことによって、さらにその研究を深めている。

**取組について**

このプロジェクトでは、第2学年の夏から20名程度の希望者履修による「アドバンストコース」が設けられている。このコースでは、関係機関や連携大学からの外部講師や留学生を招聘しての講演や意見交換会の実施、英語のスキルアップなどを実施するとともに、3月に約1週間、交流校であるオーストラリアのバイロンベイ高校を訪問する海外フィールドワークを実施している。そこでは現地高校生との交流や本校生徒による課題研究のプレゼンテーション、コーヒー農園や動物保護施設などのフィールドワーク、そしてホームステイを体験する。そして、彼らは第3学年で、学校設定科目の「未来創造」で他の生徒とともに課題研究の最終発表を進めるとともに、代表者によって主に一つ下の学年に向けて実施する3年間の集大成の発表である「未来創造会議」の運営や発表に携わっている。平成28年度の第1回「未来創造会議」は7月30日（土）に実施され、文化創造館で3つのグループが課題研究の発表とその解決のための提言を英語で実施して県内外の大学院に在籍するアジア、アフリカ、ヨーロッパの9か国の留学生と討論し、9つのグループが課題研究と提言をポスターセッション形式で発表した。





**教 務 部**

- 平成18年度 新1年生よりSeminar For U (SFU) の授業を学年毎1時間に変更
- 平成20年度 新1年生より3年時の理型数学単位数を変更
- 平成22年度 新2年生より3年時の文型に「政治・経済」「芸術Ⅲ」を選択科目に追加
- 平成23年度 総務企画部設置により教務部所管業務の一部を移管  
入学試験を一般入学試験のみに変更
- 平成24年度 新学習指導要領に伴う新教育課程への移行（数学・理科先行実施）
- 平成25年度 新1年生より新教育課程へ順次移行  
「奈良TIME」～郷土奈良の伝統、文化等に関する学習を開始  
前期中間プレ考査を無くし、定期考査を年間4回に変更
- 平成26年度 スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業開始  
授業時間を65分から50分に変更  
土曜日授業開始  
3者面談を7月と12月に統一
- 平成27年度 2年生、奈良TIMEフィールドワーク開始  
2期制を3期制に変更  
定期考査を年間5回に変更

〈10年間の歩み〉

**旧学習指導要領から新学習指導要領への移行**

平成24年度から先行実施の形で、まず数学科と理科から旧学習指導要領から新学習指導要領への移行が開始された。新学習指導要領に対応するため、検討を重ね新たな教育課程を作成した。平成25年度からは新学習指導要領が全面实施となり、学習時間を確保し学習の継続性を高めるために定期考査を年4回とした。大学入学試験の変化に対応するため平成26年度の第3学年から理型のコースをI型、II型に再編した。



**SFUの様子**

幅広い分野と現代の諸問題に関する探究心を養うために、課題研究のテーマを中心とした文章(英文や和文)を読み、疑問点や気付いたことを短文でまとめる。また自分の考えをそれぞれ発表し合い、意見を共有する。平成26年度のSGH事業開始にともない、現在は平日朝の10分間に行われている。





### 「奈良TIME」～郷土奈良の伝統、文化等に関する学習を開始

平成25年度から「郷土の伝統、文化等に対する興味・関心や理解を深める。」等をねらいとし「奈良TIME」を開始した。平成25年度は各教科・科目の中に課題を設定し24の項目で授業を行った。平成26年度入学生からは第2学年の総合的な学習の時間を「奈良TIME」として設定した。3つの研究課題領域「観光・歴史遺産」「国際協力」「生命と環境」について、設定されたテーマに対する理解を深める活動を行い、生徒自身が自ら研究課題を見つけ出し、その研究を進める事ができるように支援を行った。また、第3学年における「未来創造会議」の企画・運営及び研究・発表に向けての継続性をもたせている。



「奈良TIME」 フィールドワークの様子

### スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業への対応

平成26年度入学生から、文部科学省から指定を受けたスーパーグローバルハイスクール（SGH）の事業が開始され教育課程も一新した。月に2回の割合で土曜日授業を行い、外部講師による講演や保護者等の見学に対応できる授業編成とした。

スーパーグローバルハイスクール事業に対応する学校設定教科としてグローバルコミュニケーション・グローバル研究を設置し、探究的な学習や能動的な学習を推進する教育課程となった。これらの授業ではグループ学習による探究的な学習や、少人数制チームティーチングによるきめ細かな学習を行っている。また、第2学年の「奈良TIME」の取り組みと現代の課題の内容の相乗効果により、スーパーグローバルハイスクール事業中間発表の内容を深める授業設定としている。第3学年では総合的な学習の時間を、スーパーグローバルハイスクール事業の総まとめを行う未来創造の授業とし、7月に行われた未来創造会議実施に向けての取組を行った。



## 生徒指導部

### 1 生徒指導の目標

人間尊重の精神に徹し、社会連帯の精神を養い、基本的な生活態度を身に付け、個性豊かで自主的・積極的な実践力のある、民主的な社会の発展に寄与する生徒を育成する。加えて、生徒それぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって、有意義かつ興味深く、そして充実したものになるようにすることを目指す。

### 2 具体的展開

#### (1) 教員と生徒及び生徒相互の人間関係の育成

教員と生徒及び生徒相互の人間的なふれあいを密にし、生徒一人一人を大切にし、それぞれの個性や特徴を生かし、望ましい人格形成を目指して、生徒の内的指導の強化を図る。

#### (2) 基本的な生活態度、社会性の確立

正しい生活態度や、自律ある集団行動様式を身に付けさせるため、規則の遵守、端正な服装、挨拶の励行、時間の厳守等に努める。また、他人には敬意の念をもって接する態度を養う。

#### (3) ホームルーム活動の重視

① ホームルーム活動の内容を充実させ、生徒の自主性と友情と連帯感を深め、教員と生徒が密着した、明るく人間性豊かなホームルームづくりに努める。

② ホームルーム活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

③ 生徒会指導部と常に緊密な連絡をとりつつ生徒の自主活動の援助を行い、生徒会活動の成果をホームルームを通じて全生徒に拡大し、自治の精神の育成に努める。

#### (4) 安全教育の推進

① 人命の尊さを理解させ、各部との連携を図り、安全教育を推進し、交通事故及び災害の防止に努める。

② 日常の指導においては、心豊かで冷静かつ確かな判断力をもって行動ができるよう常に留意する。

#### (5) ものを大切にする心の育成

① 自分の持ち物を大切にするを通して、ものの価値を感じることができると心を養う。

② 貴重品の管理を徹底することにより、自分の持ち物は自分で守るという意識を醸成する。

#### (6) 校外指導の強化と地域社会との連携

全職員による校外指導を実践するとともに、育友会をはじめ関係諸団体や諸機関等との連携により、生徒の健全育成を図る。また、通学マナー向上の推進に努める。

(7) 上記の目標を達成するために、教員相互の共通理解と連携を密にし、HR担任を中心としたきめ細かい指導に努める。

### 3 校訓の日の制定

明治39年、創立10周年に制定された「至誠・至善・堅忍・力行」の校訓は、在校生はもとより、多くの卒業生がこころの礎とされている。平成24年度より、「社会性の未熟」「規範意識の低下」という課題解決のために、校訓を生かした積極的な生徒指導として「校訓の日」を導入した。1年に4回、校訓のそれぞれ4つの言葉に関するテーマを示し、ホームルームで展開している。





ホームルーム年間計画表

	1 年	2 年	3 年
目標	高校生活への適応を図り、生徒相互の理解を深め、規律ある生活態度養う。	高校生活の充実を図り、自己の理解を深め、公民としての資質を養成する。	能力適性に応じた生活設計 将来への展望と連帯。自治的な能力の伸長を図る。
月	主 題	主 題	主 題
4	読書オリエンテーション 高校生活へのスタート なかまづくり	自己紹介と役員の選出 1年生の反省と2年生の自覚 人権教育 海外研修事前学習	自己紹介と役員の選出 最上級生としての抱負 人権教育（就職・進学）
5	進路の手引き クラス作り 校訓の日①(至誠)	海外研修事前学習 畝高祭について 校訓の日①(至誠)	校外学習 畝高祭について 校訓の日①(至誠)
6	生徒指導講演会 畝高祭について	進路と学習 畝高祭について	畝高祭について 進路について
7	夏期休業の生活設計 健康と安全 校訓の日②(至善)	夏期休業の生活設計 海外研修事前学習 校訓の日②(至善)	夏期休業の生活設計 進路講演会 校訓の日②(至善)
9	進路・類型について 人権作文について	進路を考える 人権作文について	進路実現に向けて 人権作文について
10	球技大会について 校外学習について 校訓の日③(堅忍)	海外研修事前学習 球技大会について 校訓の日③(堅忍)	人権について考える 校訓の日③(堅忍)
11	われら人間創造 SGH	海外研修事後学習 人権講演会	進路（受験に向けて）
12	冬期休業の生活設計 校訓の日④(力行)	海外研修まとめ 校訓の日④(力行)	畝高生活を振り返って 校訓の日④(力行)
1	自己の進路について 生徒会役員選挙	生徒会役員選挙 SGH	卒業するに当たって
2	人権講演会（手話）	人権講演会（デートDV）	
3	2年生への抱負	最上級生になる心構え	

(注) 資料として「われら人間創造」その他関係資料等を利用する。





**生** 徒会指導部

《この10年間における生徒会長と畝高祭のテーマ（「 〓 」、特徴的な取組》

- 平成19年度 吉田 健人 「友愛+躍進=PRICELESS」  
畝高祭でのゴミを大幅削減。
- 平成20年度 中西翔吾朗 「無限大 ～ピリオドのその先に～」
- 平成21年度 出口 輝樹 「キセキの化学反応 ～自由+展望+努力+酸素 → LOVE～」
- 平成22年度 長倉 寛明 「放て！ Hotな愛のうねビーム」  
韓国の槿映（クニョン）女子高校を迎え、交流会を実施。（平成23年度も継続）
- 平成23年度 吉田 有岐 「笑顔の“集い” ～青春偏差値UP大作戦～」  
東日本大震災被災地支援のボランティア、募金活動。
- 平成24年度 浅香 慶 「畝Be-Ambitious!! ～青春を突っ走れ～」  
畝高祭1日目が警報のため中止に、後日、オープニング部分のみ実施。  
AFSキズナ強化プロジェクトで14カ国から留学生を迎え、交流会を実施。
- 平成25年度 大村 飛翔 「1200枚のうねビスケット ～ポケットをたたくとふえる幸せ～」  
学校説明会を主体的に企画運営した取組に対して優秀賞を受ける。  
年末に校舎を飾るイルミネーションを実施。（平成26年度も継続）
- 平成26年度 丸本 絢蘭 「世界を創るPieceはキミだ!! MADE IN UNEBI」  
“核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン”に協力。（以降継続）  
全国高校総体を支援する「わっしょい倭」に参加。（平成27年度も継続）
- 平成27年度 萩岡 創 「飛び立てUNE便 未来へのフライト ～1200人の夢を乗せて～」  
畝高祭に文化部発表会を加える形で日程を1日半から2日に延長、  
生徒会選挙を会長・役員選挙に分けて実施。（選挙規約の変更）
- 平成28年度 吉村 涼花 「UNBack to the history ～120年の軌跡～」  
120周年記念式典の司会進行を務める。

《生徒会の現状》

一年間を通じて、様々な行事を生徒会役員が生徒達は企画運営している。4月の新入生との対面式、部活動紹介、リーダー研修会、6月の生徒総会、9月の畝高祭、年明け1月の役員選挙、他にも通学路清掃や表彰状伝達式・社行会などを運営し、様々な募金活動にも取り組んでいる。中学生に対する学校説明会は舞台に教員の姿はなく、役員が前面に出て、運営を担っている。体育大会、球技大会や芸術鑑賞会等も各種委員会と連携し、役員が裏方を務める行事となっている。

役員になると大変忙しい一年になるが、彼らは毎年これらの行事をただ単にこなすのではなく、“進化する伝統”を合言葉に昨年よりも良いものを創りあげるよう努めている。その結果、多くの生徒、先生方から信頼され、互いに支え合う学校づくりの輪が広がっている。

今後も役員が核となり、生徒一人一人が活力に満ちあふれ、社会の様々な問題に対して高い意識を共有し、心と身体、両面で調和のとれた成長ができるように、生徒会指導部として支えていきたい。



リーダー研修会の様子



教育相談部では、様々な悩みを持つ生徒が心身ともに元気を取り戻し、明るく学校生活を送ってくれることを目標にその支援活動に取り組んでいます。

## 教育相談部

高い能力を有しながらも、それを発揮しきれず、自分に自信をもてず、時に劣等感におしつぶされそうになりながらもがき苦しむ多くの生徒がいます。

しかし、大きな苦しみを背負っていた生徒が、各方面からの支援のもと、最後は自ら殻を破って大きく飛躍し、希望に満ちて目標に向かって本校を巣立っていく姿を見ることは、何事にも代え難い喜びです。

本校では、育友会のご支援のもと、平成21年度より、スクールカウンセラーとして、江南佳代子先生（臨床心理士、特別支援教育士）にお世話になり、毎週水曜日にカウンセリングを実施していただいています。江南先生には、生徒はもちろん、保護者の悩みに対しても情熱あふれるカウンセリングをしていただき、皆さんから絶大な信頼を寄せられています。また教員に対しても、指導に関するコンサルテーションを実施していただき、常に大きなご教示をいただいています。さらに、育友会の講演会や職員研修でもご講演をいただくなど、江南先生のお力添えなしに本校の教育相談は立ちゆかない状況であり、この紙面をお借りし、改めて感謝申し上げます。

平成27年度には、森本哲平先生にもスクールカウンセラーとしてお越しいただき、水曜日と金曜日のカウンセリングでたいへんお世話になりました。臨床心理等、専門的な知識を持ち合わせない我々にとって、両先生のようなエキスパートの先生がバックで支えてくださり、ご助言を賜れることは、この上なく心強いことであり、今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

希望に満ちてあふれる笑顔で本校の門をくぐってきたすべての生徒が、3年後、胸をはって新しい道に歩み出していけるよう、教職員一同力を合わせて、今後もその支援に一層尽力していきたいと考えています。



カウンセリングルーム





## 人権教育部

### 本校の人権教育の取組について

#### (1)ホームルーム

年度によって違いはあるが、ここ数年第1学年では「なかまづくり」「思いやりショートレター」「インターネットと人権」「手話体験学習」、第2学年では「国際理解」「水俣病」「部落問題の現状と課題」「多様な性を考える」「デートDV」、第3学年では「就職差別」などをテーマに取り組んでいる。また、全学年とも人権作文を取り上げたホームルームを展開している。特に2016年度からは第2学年で「多様な性を考える」という新たな取組を行った。教員の中にも「最初とはまどいがあったが、やってみて自分も勉強になり、良かった」という感想があり、生徒たちも日常の自己の言動を振り返る良いきっかけになったようである。

#### (2)「人権を確かめあう日」について

毎月11日に、新聞記事を使った教材プリントを読み、人権について考える時間をもっている。また、夏期休業・冬期休業前には「号外」として拡大版を発行している。

2015年度からは各学年の校内人権教育推進委員の先生方の協力も得て、多角的な視点で幅広い人権問題を取り扱うことができた。今後はよりいっそう生徒が主体的に取り組めるものにしていきたい。

#### (3)人権芸術鑑賞会について

観劇と映画鑑賞を隔年で実施している。人権芸術鑑賞会は本物の芸術作品に直に触れ、感動体験と共に人権や生命について考える貴重な機会となっている。

#### (4)全校人権教育学習会について

1年間の人権学習のまとめとして、代表生徒が人権作文を全校生徒の前で読み上げ、それをもとに討議討論を行っている。その後、各ホームルームでも1年間の人権学習のまとめを実施している。

#### (5)保護者との連携、およびその啓発について

育友人権講演会を育友会総会の際に実施している。また、保護者向け人権広報誌「熱れ」を年4回作成・配布している。三者面談時には「熱れ」と「人権を確かめあう日号外」を配布している。

「熱れ」に各学期のホームルーム活動の概要を載せることによって、保護者と生徒との話題の共有を図っている。

#### (6)職員研修について

年2回教職員の研修を行っている。4月末には前年度の生徒アンケートの集約を中心に行い、生徒理解を深めた上で1年間の人権教育をスタートさせている。11月には外部講師を招いて研修会をもっている。

#### (7)生徒の人権自主活動について

2016年現在、解放研に1名の生徒が所属していて、高解研の研修会（年3回）に参加したり、文化祭で討論会を企画したりして活動している。



〈デートDV講演会〉



〈全校人権教育学習会〉



〈手話講座〉



平成21年度 京都大学見学会をこの年度から開催。  
平成25年度 京都大学に加えて大阪大学見学会をこの年度から開催。  
平成26年度 「職業人から学ぶ」会をこの年度から開催。

**進**路指導部

〈10年間の歩みと現状〉

進学指導の取組

2学期制から3学期制、65分授業から50分授業、それらへの変更等に対応しながら、生徒に3年間の長期的展望をもった具体的な学習スタイルを確立させるとともに、高く明確な進路目標の確立と実現を目指した指導を行っている。

進学講習として、全学年に夏期講習を実施するとともに、2年生には秋期、冬期の放課後講習と土曜講座、3年生には春期の放課後講習と土曜講座を開催している。

キャリア教育の取組

「先輩の話を聞く会」、「職業人から学ぶ」会や生徒や保護者対象の進路講演会、大学見学会、大学出前講座などの開催、職場体験事業等の紹介などを通して、生徒の進路選択の意識向上やキャリア意識の醸成を図っている。



京都大学見学会



大阪大学見学会



先輩の話を聞く会（1年生）



先輩の話を聞く会（2年生）



進路講演会（保護者対象）



「職業人から学ぶ」





## 保 健 体 育 部

- 毎年5月に校内体育大会、10月に球技大会（1・2年生）を行っている。
- 2月には学校医、育友会の役員の方々をお招きし、学校保健委員会を開催している。健康診断結果や体力テスト結果、保健室利用状況や環境衛生等、学校保健全般について情報交換している。
- 校内体育大会は檀原公園陸上競技場を借りて、学年ごとのクラス対抗で行っている。各学年団体種目を3種目、個人種目を1種目、リレーを男女1組、平成28年度の大会から男女混合1組、1年生、2年生、3年生から男女各1名ずつの6名でのリレーの2種目を新しい種目として実施し、学年をこえた今までにはなかった繋がりや応援する姿を見ることができた。
- 球技大会は1・2年生の男女とも2組に分けて予選リーグを行い同じ順位同士で、順位決定戦をおこなう。試合のない時は同じクラスの男子は女子を、女子は男子のチームをお互いに応援する姿を見ることができた。  
毎年であるが3年生は校舎の窓から羨ましそうに眺めているのが恒例の姿である。







**環**境整備部

最近の10年間の取り組み

歴史と伝統ある校舎で学ぶことのできる喜びを先輩から後輩に引き継ぐために、教職員、生徒が一丸となって綺麗な学習環境づくり、校内美化に日々取り組んでいる。

主な活動としては、春・秋の落ち葉清掃、年2回の床面塗油（本館床の油引き）、畝高祭でのゴミ分別・リサイクル作業、生徒用ロッカーの整備作業などである。

本校自慢の銀杏並木の落ち葉清掃は、整備委員が始業前に行い、通学する生徒たちを気持ちよく迎えている。また、春・秋2度の床面塗油は築80年を超える本館校舎を慈しむ作業として、生徒たちにも定着している。畝高祭でのゴミ分別・リサイクル作業は、かつて模擬店の容器や、展示の段ボールなど多くのゴミを出していたが、藤谷部長の頃より、ゴミの分別・減量化に取り組み、模擬店容器の統一、リサイクルコーナーでの分別により、大幅な減量に成功した。

最後に、本校独自の取組として、生徒用ロッカーの整備があげられる。他校と違い、本校は昇降口に生徒個人のロッカーが割り当てられ、3年間そのロッカーを使用する。3年生の卒業後、在校生の整備委員が、卒業生のロッカーを整備点検し、新入生に割り当てる。このように、3年間学校から貸し出している個人ロッカーを先輩から後輩へと引き継ぐことも大切な役割である。

活動の様子



床面塗油（5月）



畝高祭でのゴミ分別・リサイクル作業（9月）



落ち葉掃き（11月）



ロッカー整備作業（3月）



## 渉外部(育友会)

平成19年度	会長	辻井	康裕	
平成20年度	会長	辻井	康治	
平成21年度	会長	當麻	和重	
平成22年度	会長	城戸	琢磨	空調設備設置・管理運営委員会発足
平成23年度	会長	中西	徹	全教室にエアコン設置
平成24年度	会長	上野	雅弘	制服リサイクル活動開始 食堂のリニューアル
平成25年度	会長	正木	寛	滋賀県立膳所高等学校PTAとの交流
平成26年度	会長	正木	寛	専門部に広報部を設置 SFP(1日畝高生体験)実施
平成27年度	会長	堤	等	専門部の統合・改編
				奈良県高P連広報誌コンクール「最優秀賞」受賞
平成28年度	会長	堤	等	育友会会則等の改定 鴉友会を育友会に統合
				近畿高P連広報誌コンクール「最優秀賞」受賞

### 〈10年間の歩み〉

#### エアコン設置の取り組み

平成22年度から育友会による空調設備の設置が検討され、アンケート調査の実施等を経て、平成23年度の育友会総会にて全会一致で設置が承認された。また、金鷄会(同窓会)からの多大なるご支援もいただき、予定通り8月21日に完成し、普通教室と特別教室の計42教室全てにエアコンが設置された。この年の夏期後期講習や9月の授業で運用が開始され、快適な環境で講習や授業を受けることができるようになった。平成24年度から全面運用され、生徒の部活動や畝高祭の準備等の様々な活動が円滑に実施できるようになった。

#### 制服リサイクル活動

平成24年度、初めての試みとして「制服のリサイクル」が行われた。平成23年度の卒業生に協力をお願いし、約100点の制服を提供していただき、畝高祭のバザー会場の一角で販売を行い、多くの保護者・生徒で賑わった。予想以上に反響が大きく、平成25年度以降も回収方法や販売方法が改善され継続している。

#### 広報部の設置・育友会報の全面リニューアル

平成26年度から専門部の中に新たに「広報部」が置かれ、昨年度まで育友会報「うねび」を担当していた「文化部」に代わり専属的に担当することになった。各行事において「広報部」が活発に取材を行い、写真を多く取り入れた育友会報にリニューアルされ、紙面も全ページカラーの充実したものができあがった。翌年の奈良県高等学校PTA連合会主催の広報誌コンクールにおいて「最優秀賞」を受賞した。

#### SFP(1日畝高生体験)実施

平成26年度の育友会の新たな事業として「SFP(Seminar For Parents)～1日畝高生体験～」が実施された。日頃、自分の子どもがどのような環境の中で、どのような授業を受けているのかを、保護者に体験していただくという趣旨で企画され、120余名の方が参加された。進路講演会終了後、食堂での昼食に引き続き、英語・国語・数学・理科・公民・歴史の6講座に分かれ、講師として協力していただいた先生による90分の授業を受講してもらった。授業の最後に実施したアンケートの結果もたいへん好評で、来年度以降の開催継続を要望する意見が数多く寄せられた。そこで、平成27年度は音楽・家庭を、平成28年度は美術・情報の講座を設け参加人数も毎年増えている。

#### 育友会会則等の改定

平成28年度、育友会会則が改定され育友会総会で承認された。改定内容は、学習支援・進路指導費に関する規定の新設、鴉友会の育友会への統合、財政に関する規定の新設、役員に関する内規の新設、慶弔規定の一部改定で、多岐にわたって改定が行われ、6月10日から適用されている。



渉 外 部 ( 同 窓 会 )

**渉** 外部(同窓会)

金鷄会会長

阪本 道隆 (旧中45回卒) 平成16年11月3日～平成25年11月3日  
堀井 良殷 (高6回卒) 平成25年11月3日～

総会記念講演 (演奏)

- 平成19年度 衆議院議員 高市 早苗氏 (高31回卒) 「安心・安全な社会創りのために」
- 平成20年度 滋賀県立大学名誉教授 (考古学) 菅谷 文則氏 (高13回卒) 「天武天皇と飛鳥」
- 平成21年度 山口 智氏 (高35回卒) 西欧の打弦楽器 ハンマーダルシマーの演奏
- 平成22年度 財団法人大阪21世紀協会理事長 社団法人心学明誠舎理事長  
堀井 良殷氏 (高6回卒) 「先も立ち われも立つ」～石門心学の復権～
- 平成23年度 本校の音楽部・吹奏楽部とそのOB・OGによる演奏会
- 平成24年度 日本美術院理事 愛知県立芸術大学教授 松村 公嗣氏 (高18回卒) 「日本画の話」
- 平成25年度 本校の音楽部・吹奏楽部とそのOB・OGによる演奏会
- 平成26年度 クオリティー・エレクトロダイナミクス (QED) 社長兼CEO (最高経営責任者)  
米国商務省顧問 藤田 浩之氏 (高37回卒) 「道なき道を行け～一歩ずつ～」
- 平成27年度 本校の音楽部・吹奏楽部とそのOB・OGによる演奏会
- 平成28年度 本校音楽部による記念賛歌合唱 第2学年生徒2名による留学体験報告  
120周年記念式典上映



藤田浩之氏の講演



講演前の生徒との懇談会にて

入学式来賓 (卒業生代表)

- 平成19年度 第12回卒業生代表 池田幸重郎・石橋 勝・多根井明則
- 平成20年度 第13回卒業生代表 植村 家忠・岡田 和彦・松岡 昭二・山口 恵
- 平成21年度 第14回卒業生代表 甲村 侑男・金澤 祥亮・脇屋 眞一・足高 發
- 平成22年度 第15回卒業生代表 三上 孝孜・椿本 雅宥・平井 富勝
- 平成23年度 第16回卒業生代表 川本 康司・下間 貞子・土家 孝司・松田 圭正・松塚 信夫・森川登美子
- 平成24年度 第17回卒業生代表 西本 弘・森澤 一・松浦 潔・村野 公孝・庄田 進
- 平成25年度 第18回卒業生代表 澤 光彦・阪本 雅勇・中井 健・土屋 利之・高瀬 泰嗣
- 平成26年度 第19回卒業生代表 長谷川力雄・笹岡 逸夫・高栄 秀美・田中 通子・勝川 育司
- 平成27年度 第20回卒業生代表 西川 隆彰・岡本 守・加藤子隆康・河内聖一朗・松田 寿児
- 平成28年度 第21回卒業生代表 藤山 雅三・上村 博文・岡本 秀光・崎山 光友・福塚 忠司





文化図書部



〈この10年の歩みと現状〉  
〈文化行事〉

○芸術鑑賞会

毎年芸術鑑賞会を開催し、プロのアーティストによる上質な舞台芸術にふれる機会を提供してきた。近年は、鑑賞するだけでなく、希望者生徒が落語や文楽を実際にステージで体験したり、書道部員が歌詞を作品に仕上げ演奏時にスクリーンに映し出したり、吹奏楽部員や音楽部員が演奏に参加したり、新聞部員がインタビューを行ったりするなど、可能な限り様々な形で生徒が参加している。

○文化講演会

隔年で行っている文化講演会では、多岐にわたる分野から世界的に活躍されている講師をお招きし、直接お話を伺っている。平成22年には文部科学省の後援で、当時桐朋学園大学学長であった堤剛氏によるチェロコンサートを開くことができた。

○文化講座

年に数回開催している文化講座もあらゆるジャンルからテーマを設定してきた。人気トップは放課後にもかかわらず、文化創造館の階段席を埋めた柳田理科雄先生の「空想白熱教室」。ユニークな「こんにゃく畑からの贈り物」では、こんにゃく芋の栽培からこんにゃく作りまでを行った。近年では、海外留学から帰国した生徒のレポート、海外からの留学生やALTの先生による母国の紹介など、今日の海外事情をテーマにしたものが増えている。

また平成25年に第1回のビブリオバトルを開催以来、奈良高校との定期戦をはじめ毎年複数回行っている。120周年の今年は東大寺学園を招待して畝高祭で開催し、一般の観客の参加で盛況を呈した。

第1回の全国高等学校ビブリオバトル関西大会（平成25年）以来毎年代表者が出場しており、平成27年の大会では全国大会出場を果たした。



〈読書推進活動と図書館利用〉

○平成19年度読書感想文推進大賞を受賞。

○平成19年「金魚鉢通信第1号」発行。教職員から生徒へ向けて本や本の楽しみを伝える広報紙として、現在毎月発行している。

○平成21年の新学習指導要領や平成26年度にSGH指定校になったことを受け、図書館は勉強・読書の場としてだけでなく、情報収集・編集の場としての必要性がより強く出てきた。調べ学習が増え、奈良県立図書情報館のウィークリーサービスや橿原市立図書館の団体貸出を大いに活用している。

コミュニケーションの場でもあるという視点から、書道部とのコラボ企画「ほっと一息展」、美術選択生徒の作品を展示する「図書館でアート」、梶井基次郎『檸檬』体験など館内展示を工夫している。また、年に数回読書会を開催している。最近では人気の『君の隣にたべたい』の感想掲示、「おもしろくなかった本」でのブックトークなど、生徒が気軽に楽しく参加できる読書イベントを企画、実施した。

○平成26年に新しい蔵書管理システムを導入し、図書館での業務に役立てている。

○文化図書委員の活動

図書館での委員会活動は大切である。委員長を中心としてカウンター当番のほか、毎月発行するライブラリーニュース編集、館内の特集展示、しおりやPOPの作成、書架整理や清掃など、読書の輪を広げるための活動を実行している。

# 部 活 動





## 陸上競技部

陸上競技部は現在、1年生27名、2年生12名の39名で活動しています。夏のインターハイ、秋のユース大会では、毎年、多くの選手が近畿大会に出場しています。また、11月に行われる駅伝競争大会での近畿大会出場を目指し、長距離選手たちも日々練習を積み重ねています。陸上競技部では、「当たり前のことを当たり前にする」をモットーにしています。競技力の向上には、練習だけではなく、挨拶をしっかりとすることやマナー、ルールを守るといった、生活面が大切になると思います。そこで、普段から基本的なことを丁寧にしていこうと全員が意識をして生活しています。

これからも、部員一人一人が目標をもち、その目標に向けて努力を続けていきます。



## 登山部

### ○ 平成28年度現在の部員数

- 3年生 2名 (男子 2名)
- 2年生 8名 (男子 8名)
- 1年生 7名 (男子 4名、女子 3名)

### ○ 最近10年間の実績

(全国大会)

平成20年度 全国高等学校登山大会 (埼玉県 白泰山系、両神山系、白岩山系)  
女子が出場

平成25年度 全国高等学校登山大会 (大分県 久住山、中岳、大船山)  
女子が出場

(近畿大会)

平成20年度 近畿高等学校登山大会 (兵庫県 蘇武岳、神鍋山) 女子出場

平成25年度 同 (奈良県 大和高原) 女子出場

平成27年度 同 (和歌山県 熊野古道) 男子出場

平成28年度 同 (大阪府 和泉葛城山) 男子出場



この10年間は何度か部員不足により公式戦への出場ができない時があったが、ここ数年は部員にも恵まれ、公式戦への出場や季節ごとの山行などの活動を行っている。装備や経費の関係から、最近は夏合宿を県内(大普賢岳、稲村ヶ岳など)や三重県(御在所岳)などの近県で行っているが、今後は以前行っていた北アルプスへの夏山合宿を復活させたいと考えている。





## 水 泳 部

敵傍高校には長水路プールがあり、恵まれた練習環境のもと、毎年約40名の部員たちが、互いに切磋琢磨しながら練習に励んでいます。水泳は道具も使わない、身体のみを使ったスポーツであり、部員たちは自分の課題に向き合い、心身を鍛えるべく日々練習に励んでいます。平成28年度も多くの新入部員たちが入部し、多くの3年生が引退を迎える夏までは44名の部員たちが、広々としたプールで練習をさせて頂きました。これも今日まで支えてくださった方々の支えのおかげです。今後も「日常力」を合い言葉に、互いの健闘をたたえ合い、精進していく所存です。120周年記念誌発行にあたり、3名(うち2名は外部コーチとして正式に招聘)の卒業生が『水泳と私』と題して寄稿してくれました。卒業生の益々の活躍を祈念しています。



平成27年度 副キャプテン 山野遼汰郎  
(平成28年度外部コーチ)

高校の水泳部に入り部員同士の連携が重要だと気が付きました。中学生の頃は単に応援をするだけでしたが、高校に入ってから互いのタイムを計測したり、他の部員の泳ぎを見てアドバイスをするなどして、自分たちでより速くなる努力をするようになったからです。そこから水泳に対する意識が変わり、周りの人と成長していくという考えをもつようになりました。

主将や、副主将の役職はありますが、それに関わらず一人一人がより良い活動のために自分から動く仲間恵まれました。また高校3年生の時に、他校との合同練習が実現し、それまでやったことなかった練習を経験したり、他校の選手たちと競うことなど、良い刺激になりました。このような活動が、今日の敵傍高校水泳部の後輩たちが近畿大会に出場するなどの活躍につながっているのだと思います。

平成26年度 副キャプテン 岡川 隼也  
(平成27年度外部コーチ)

僕は水泳部の副キャプテンを務めていました。幼いころからスイミングスクールに通っていたこともあり、練習メニューの作成や泳法の指導なども行っていました。高校生の約2年半の活動期間の間に、部活動を通じて学んだことは、特に周囲への気遣いや思いやりの心だと感じています。練習メニューを作成するうえで、ただ部員が速くなれるようなメニューを考えるのではなく、部員の身体の疲労具合や個人の泳力に見合ったレベルのメニューを考えたり、泳法の指導でも性格と同じように各個人それぞれに自分に合ったフォームがあるので、そのフォームを考えたりなど、部の中での役割を通して周囲をよく観察し、気遣えるようになったと感じています。

平成24年度 キャプテン 森本 晃平

私は高校時代水泳部に所属しており、キャプテンを務めておりました。部員をまとめる重要な役割で責任の重さを感じることもありましたが、良い経験をさせていただきました。水泳部での一番の思い出は、3年生の時の近畿大会予選です。「ベストタイムを出そう、近畿大会へ行こう!!」と部員全員で気持ちを一つにして挑んだ試合でした。同学年や後輩などの仲間との関わり大切さを学んだ3年間で、この仲間は本当に私の宝物です。今でも年に2回ほど集まって高校時代の話をしています。仲間との関わりは大学生になった今でも、もちろん大切にしています。現役生には3年間の高校生活で素晴らしい仲間を作って卒業して欲しいと思います。



## 卓 球 部

卓球部は120周年を迎える平成28年度現在、選手が3年生12名、2年生9名、1年生12名と女子マネージャー1名が在籍しています。部活動を通して自信・勇気・感謝の気持ちを身に付け、学校や周囲の方々から応援していただけるような集団であり続けられるよう日々努力を重ねています。ここ数年間で練習環境も整いつつあり、夏のインターハイ予選や秋の全国選抜大会予選などで、男女とも十数年ぶりに学校対抗ベスト4に入賞し、個人でも多数の近畿大会出場者が出ました。また、平成25年度全国選抜シングルの部では女子の予選で優勝し、全国大会本戦にも出場するなど少しずつではありますが実績を残せるようになってきました。目標は、公立高校としてインターハイに出場しそこでの勝利ですが、それを通して人間力を向上させるという目的も見失わないように今後も活動をしていきたいと考えています。130周年に向けて畝傍高校と共に益々発展していけるよう精進を続けます。



## ソ フ ト テ ニ ス 部

平成28年4月、新しい顧問がやってきた。3年ぶりの登場だ。7月、女子は大阪舞洲で行われた近畿大会に駒を進めることができた。

畝傍高校が110周年を迎えるとき、彼は入学し、ソフトテニス部に入部した。3年では部長となり活躍する。卒業後、大学生で外部監督となり後輩男女の部活動の原動力となる。そして120周年に教員として畝傍高校へ赴任し、顧問となった。

部長を中心に、お互いに切磋琢磨する部活動である。舞鶴への遠征、女子は吉野での合宿、今年は男女合同での天理合宿を行う。常に70名を超える大きな所帯である。部活動には一人ひとりが一所懸命取り組むことを目標とする。共にプレーする顧問のもと、ソフトテニス部のこれからの成長が楽しみである。







## バレーボール部

### 近年の主な成績

- 平成24年 女子ベスト8
- 平成25年 男子近畿大会出場（神戸市）22年ぶり
- 平成26年 女子近畿大会出場（京都市）39年ぶり
- 平成27年 女子奈良県総体（Cブロック）1位
- 平成28年 男女近畿大会アベック出場  
女子近畿大会1回戦突破 畝傍2-1 明石商業  
女子奈良県総体（Bブロック）1位  
国体近畿ブロック出場  
奈良選抜チーム 上出凌太郎



### 部員

- 男子 27名（1年11名・2年10名・3年7名）
- マネージャー3名（1年1名・2年1名・3年1名）
- 女子 17名（1年10名・2年5名・3年7名）
- マネージャー3名（1年1名・2年1名・3年1名）

「知・好・楽」これを知るものは、好むものに及ばない。これを好むものは、楽しむものに及ばない。バレー部活動の基本的な考え方である。常に目標をもち創意工夫し努力する。うまくいかないときは課題発見のチャンスと捉える。それぞれの部員が練習のテーマを自覚し、その積み重ねの習慣を大切にしている。技術・体力・戦術と人間力の向上を目指している。チームモットーは、『こころでつなぐ』

監督・コーチ 田中 啓二 吉川 知晃 泉 博 家治浩之助

新チーム結成時は、勝つことができず、楽しいことよりもつらいことの方が多く、何度も“辞める”という言葉が頭をよぎりました。あきらめず最後までがんばることができたのは、厳しくもあたたかく指導していただいた先生、いつも応援にきてくれた家族、何よりすばらしいチームメイトのおかげです。目標であった近畿大会出場と、私自身、奈良選抜チームに選ばれ、国体近畿地区予選に出場できた事は、この上ない喜びです。この3年間で経験し学べたことは、本当にたくさんあり大きいものでした。この経験を将来に生かしていきたいと思えます。  
平成28年度男子主将 上出凌太郎

女子バレー部は、近畿大会出場を目指し、日々練習に励んでいます。一昨年は、39年ぶりの近畿大会出場を果たし、今年は、120周年という記念すべき節目の年にも近畿大会に出場することができました。私たちが目標を達成することができたのも、諸先輩方から受け継いだ伝統、保護者の方々の支援、顧問の先生方のご指導のおかげです。バレーボールを通じて、技術だけでなく人間的にも多くのことを学ばせていただきました。この貴重な経験を今後の糧とし、より一層努力したいと思います。  
平成28年度女子主将 久下 千晶







## バスケットボール部

現在、選手22名（2年9人・1年14人）マネージャー6人（2年2人・1年4人）で活動しています。過去に全国大会にも出場された先輩方が築かれた伝統を大切にして、少しでも追いつけるように、部員全員で、『全国大会出場』を目標に、日々、練習に励んでおります。また、普段の学校生活を大切にして、文武両道を掲げ、敵傍高校生として、恥じないように頑張っています。

男子は、全国総合体育大会奈良県予選においてベスト8に進出するほか、今年度は奈良県国民体育大会少年男子選抜チームに敵傍高校から2人選出され、奈良県代表チームの一員として近畿ブロック予選で活躍してくれました。女子も奈良県総合体育大会でブロック優勝という成績を取っています。これからも部員全員で精一杯頑張っていきたいと思っています。



平成27年度奈良県総合体育大会

## ハンドボール部

本年度は男子24名（2年生11名、1年生13名）女子25名（2年生12名、1年生13名、マネージャー5名）で活動しています。ハンドボールをすることだけでなく、挨拶や整理整頓、感謝の気持ちをもって活動し、周囲から応援される部活動であることを大切にしています。平成26年度の奈良県春期選手権大会で男子がベスト4、女子がベスト8に進出しましたが、それ以降大会では一回戦敗退が続いていました。生徒一人ひとりが考え話し合い練習に取り組むことで、平成27年度奈良県総体では男子が接戦を制し、ブロック優勝を勝ち取りました。大人数であるためレギュラー争いも激しく、互いに高め合う中、本年度新チームでの初めての公式戦である奈良県総体では、男子がブロック3位、女子がブロック2位と健闘してくれました。「パスキャッチは心 シュートは命懸け 敵傍全員送球」を掲げ、男女ともに目標に向け日々努力しています。





## サ ッ カ ー 部

現在、選手25名(2年12名、1年13名)女子マネージャー4名(2年1名、1年3名)で活動しています。近年、上位陣と拮抗した試合ができるものの勝利にはつながらず、全国高等学校総合体育大会県予選・全国高校サッカー選手権大会県予選ではベスト16、U-18サッカーリーグでは3部リーグと、上位進出することができていません。過去には、全国大会にも出場している伝統のあるサッカー部では、1月・8月の年2回OB会を開催し、日頃から様々な面でご支援いただいているOBの方々と交流させていただき、伝統の深さを感じることができ活動の励みとなっています。普段の行動もサッカーのプレーにつながっていると考え、挨拶、礼儀、人に感謝する気持ち等のサッカーのプレー以外の部分も大切にしながら、文武両道を掲げ、先輩方の成績に少しでも近づくことができるように頑張ります。



## ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル 部

ここ10年以上敵傍高校単独で15人制の試合に出場することができていないのが、3年前から7人制の全国大会(アシックスカップ)が始まり、その大会では敵傍高校単独で出場し3年連続3位となっている。しかし、15人制では毎年高田高校等と合同で各公式戦に出場している。今年3月に行われた近畿大会は主催県ということで例年より2校多く出場することができたため12年ぶりに合同チームで出場したが大阪産業大学附属高校に0-70で敗れた。なかなか単独チームで出場することが難しくなっているが、普及の観点から15人に満たないチームの選手による選抜チームを作り、近畿大会や関西大会そして全国大会へとつながり、最終的には花園の全国大会決勝戦の前座試合として東西対抗戦に出場する道がありモチベーションを保つことができている。敵傍高校からも毎年ではないが出場をはたしており、今現在活動している選手たちにとって東西対抗戦に出場することが大きな目標の一つとなっている。





## 柔 道 部

- 〈部員数〉 3年生(男子2名)  
2年生(男子3名 女子3名)  
1年生(男子2名)

### 〈活動状況〉

本校柔道部は少人数ですが、キャプテンを中心に自分たちで練習メニューを組みながら日々練習に励んでいます。本年度は専門的な指導ができる教員がいない中、他校の生徒と合同練習を行ったり、本校の卒業生でもある外部コーチから指導を受けたりしながら、部員一人一人がそれぞれの課題に取り組んでいます。毎回の試合では部員の保護者の方々が応援に足を運んでくださり、また、年に一度開催されるOB会では、歴代の柔道部の先輩方からたくさんの貴重なお話を聞くことができました。たくさんの方々の応援のおかげをもちまして、11月に行われた近畿大会奈良県予選では、個人・団体両方の部で入賞し、近畿大会出場が決まりました。今後もさらに高みを目指して一層努力していきたいと思っております。



### 〈本年度の活動実績〉

- 平成28年奈良県高校柔道体重別選手権大会 第71回国体選考会(4月)  
〈個人戦60kg級〉第二位 3年 嶋谷 陸
  
- 全国高校総体柔道競技奈良県予選(6月)  
〈個人戦60kg級〉第三位 3年 嶋谷 陸
  
- 第25回奈良県高等学校柔道練成大会(8月)  
〈団体戦〉第二位 2年 森川、黒山、西田 1年 梅野、脇田  
〈個人戦60kg級〉第二位 2年 西田 誠治  
〈個人戦73kg級〉第一位 2年 森川 司陽  
第二位 2年 黒山龍之介  
〈個人戦無差別級〉第二位 1年 梅野 裕太
  
- 奈良県高校総体柔道競技(9月)  
〈団体戦〉第三位 2年 森川、黒山、西田 1年 梅野、脇田  
〈個人戦81kg級〉第三位 1年 梅野 裕太
  
- 第77回奈良県段級別柔道選手権大会(11月)  
〈個人戦高校一般一級の部〉第三位 2年 西田 誠治  
〈個人戦高校一般初段の部〉第三位 2年 森川 司陽  
第三位 1年 梅野 裕太
  
- 近畿高校柔道体重別選手権大会奈良県予選(11月)  
〈個人戦90kg級〉第三位 1年 梅野 裕太  
〈団体戦〉第四位 2年 森川、黒山、西田 1年 梅野、脇田





## 剣道部

部員 3年：男子2名、女子2名  
2年：男子5名、女子1名、マネージャー1名  
1年：男子4名、女子3名



### ・顧問より

「剣心一如」、剣道を通じて礼儀を重んじ人を思いやり、感謝の心を忘れず活動しています。男子団体は、平成26年度に近畿大会に出場、平成28年度の新人戦においてベスト8になるなど力をつけてきています。男子は、奈良県の上位入賞、女子は初心者が多い中、初戦突破という目標を掲げ稽古に励んでいます。



### ・男女主将より

男子キャプテンという大役でしたが、皆が支えてくれたので、剣道部として頑張れてうれしさと感謝の気持ちにあふれています。

一番感極まったのは、一致団結して挑んだ最後の大会です。一人一人が高い目標を持ち、それでいて皆一つになって高みを目指すことのできた試合でした。あと一歩で惜しくも近畿大会を逃してしまい悔しきであふれた涙には、皆で「一試合懸命」にやりきれたという、うれしさも含んでいました。

辛いことも多く楽しいことばかりではありませんでしたが、剣道部が僕たちをまた一歩前へ進めてくれたと確信しています。その大きな一歩前の世界へは、一人では決していくことのできない、皆と一緒にだからこそ行ける所だと剣道が教えてくれました。

これから剣道部を築いていく皆には、それぞれ様々な苦悩を抱えながら、耐えるときには耐え楽しいときには楽しみ、感謝の心を忘れず、剣道を通じて、生活全般の何事にも全力で突き進んでもらえたらうれしいです。

村上 雅俊

女子キャプテンとして貴重な体験をさせていただきました。自分のことや部員のことなど思うようにいかないことが多々あり、部員に厳しい言葉をかけたこともありました。

人数が少ない女子チームゆえ苦労もありました。それでも乗り越えられたのは、同学年の仲間のお陰です。指導していただいた顧問の先生方、卒業しても気にかけてくださる先輩方、ついてきてくれた後輩たちに感謝しています。

濱口 詩乃



## 弓 道 部

### 《弓道部の活動を振り返って》

弓道部は奈良県の強豪校として活躍し、輝かしい成果をあげている。その原点は日々の熱心な練習にある。多くの部員が高校生になって、弓道始める。特に本校の生徒は向上心に富み、コツコツ真面目に努力を重ねるので、上達も早く、その成果も素晴らしいものとなっている。この10年間にインターハイの団体戦に2回、個人戦に6人の選手が出場し、全国選抜大会の団体戦に2回、個人戦に5人の選手が出場している。県大会の頂点に立たなければ、出場出来ないこれらの大会に幸いなことに毎年のように出場出来るのも、日々の熱心な練習の成果である。また、弓道競技はこの10年間に2度、奈良県でインターハイを開催した。その時には多くの生徒が補助員として、大会を支えてくれた。真面目で熱心な生徒に囲まれ、顧問としても素晴らしい経験を積むことが出来た。今後も生徒と共に心・技・体を磨き、共に成長できるよう努めたい。



### 《10年間の全国大会出場の記録》

- ★平成20年度 第53回全国総体〔埼玉県〕男子個人 第4位 藤田  
第27回全国選抜大会〔静岡県〕男子団体 北村、辻、湧谷、榊本、 男子個人 湧谷
- ★平成21年度 第54回全国総体〔奈良県〕男子団体 古郷、楠田、山本、前川、木下、平井
- ★平成22年度 第29回全国選抜大会〔鹿児島県〕女子個人 渡辺（※東日本大震災のため中止）
- ★平成23年度 第30回全国選抜大会〔岐阜県〕男子個人 相原
- ★平成24年度 第57回全国総体〔長野県〕男子個人 相原
- ★平成25年度 第58回全国総体〔福岡県〕男子個人 藪野  
第32回全国選抜大会〔大阪府〕男子個人 川北
- ★平成26年度 第59回全国総体〔東京都〕男子団体 ベスト16 山田、上山、中西、川北、高尾、木下  
男子個人 川北  
第33回全国選抜大会〔鹿児島県〕男子個人 上山
- ★平成28年度 第61回全国総体〔鳥取県〕男子個人 石田、辻本  
第35回全国選抜大会〔愛知県〕女子団体 後藤、庄田、鎌倉、細川





## 野 球 部

野球部は日頃から選手主体のミーティングを重ね、甲子園出場という目標を共有しながら、一球一球を大切にすることを心掛け練習に励んでいます。平成19年（110周年）から平成28年（120周年）において毎年20人以上が入部し、春から夏までの期間は総勢80人前後の部員が選手権大会予選突破を目指して活動しています。平成28年は3年男子31名女子1名、2年男子23名女子4名、1年男子22名女子4名の計85名です。

この10年間の戦績ですが、平成19年の秋季大会でベスト8に進出し、21世紀枠の近畿地区代表校に選出されました。選抜大会出場を決める選考委員会が行われた平成20年1月25日には出場決定を待つ多くの取材陣が駆けつけ吉報を待ちましたが、あと一步のところまで夢は叶いませんでした。百合先生の精力的な指導の下、この21世紀枠選出をきっかけに平成21年と平成23年の選手権奈良大会でベスト4に進出、平成24年選手権奈良大会では準決勝でその年の選抜大会に出場した智辯学園を4-3で破り、31年ぶりに決勝に進出しました。決勝当日は畝傍高校の同窓生を中心に7000人を超える観客が佐藤薬品スタジアムのスタンドを埋め尽くしました。特に畝傍の三塁側アルプスがいっぱいになり、移動していただいたレフト外野席も満員になる状況でした。初の甲子園進出に向けて熱い応援をいただきましたが、6-13で敗れ悲願達成は叶いませんでした。その後も平成26年春季大会第3位、平成26年と平成27年の選手権奈良大会でベスト4に進出し、奈良県高校野球の上位の力を維持しています。

この間、練習環境も少しずつ整えられてきています。バッティングゲージ（通称鳥かご、バックネット後方）やバックネット上部の防球ネットの改設、バッティングゲージ2基新設、バックネットのラバー設置など、今まで以上に安全に配慮し、思う存分練習に打ち込める状況になってきています。野球部保護者会、OB会、本校鴉友会、本校事務室の方々にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。

近々に甲子園出場を果たせることを願っています。







## 化学部

化学部は、平成28年度3年生1名、2年生3名、1年生3名の7名です。人数は少ないですが、実験の好きな生徒が集まり、各自の研究テーマに取り組んでいます。畝高祭では液体窒素の実験の発表を行いました。2月には、校内の生徒を対象にした実験ショーを行う予定です。2年生が1年生に化学の講義をするセミナーや、パソコンや図書館を利用して化学物質のことを調べて発表する文献調査などもしています。



## 物理部

部員がそれぞれ興味をもった現象について研究したり、工作に取り組んだり、自由な雰囲気の中で、自主的に活動している。この10年間では特にペットボトルロケットの実験やピタゴラスイッチの製作などに力を入れた。さらに最近5年間は、校内の活動だけでなく、校外の大会（「科学の甲子園」「エッグドロップ甲子園」など）やイベント・講習会（奈良高校SSH研究講座など）にもどんどん積極的に参加している。平成27年度と28年度は自律型ロボットによる国際的なコンテストであるWRO Japan 奈良大会を勝ち抜き、2年連続で決勝大会（全国大会）に出場、平成28年度にはWRO Japan 2016決勝大会（全国大会）レギュラーカテゴリー・ミドル競技・高校生部門で優勝した。





## 生 物 ・ 園 芸 部

生き物好きな生徒が生物実験室に集い、毎日にぎやかに活動しています。年によって部員の増減はありますが、途切れることなく続いています。普段は金魚やメダカ、熱帯魚等の水槽の魚たちや、イモリ、カメといった小動物の飼育をメインに活動しています。

今年で7年目を迎えるウサギの「キウイ」も相変わらず元気に愛嬌を振りまいています。屋外の畑では、トマトやキュウリ、サツマイモ等の野菜に加え、花卉の栽培にも取り組んでいます。週末や長期休業中には、海や川に生物採集&観察に行ったり、博物館に見学に行ったりしています。毎年文化祭や学校説明会の際には、生物展示や各種活動報告、研究発表などを行っています。



### ※最近の活動

- ・ 飛鳥川の魚類および底生生物の調査
- ・ プラナリア（アメリカナミウズムシ）の再生実験
- ・ 光るミミズ（ホタルミミズ）の観察
- ・ 「チリモン」（乾燥シラス中の混入海産生物）の観察
- ・ 豊国崎（大阪府岬町）の潮間帯生物の観察 etc.







## 食 物 部

現在、1年生13名、2年生11名の計24名で活動しています。

活動は週に1回、様々な献立に挑戦しています。本格的なお菓子から、家庭でできる日常食、パン作りなどにも取り組んでいます。

6月には、毎年恒例の3年生による「卒業制作」を行いました。今年はディズニープリンセスをテーマに、お菓子でディズニーの世界を表現しました。グループで分担し、買い出しから完成まで3日間かかりましたが、全員で協力して完成させることができました。

また、今年度は家庭クラブの「茶がゆに関する研究」に、食物部として参加しました。食文化の研究者である富岡典子先生に、大和の食文化に関する講演をしていただき、本校の今西道子先生による茶がゆ調理法講習会にも参加しました。

調理技術の向上のみならず、様々な食文化にも触れながら、食物に関する幅広い知識と技術を身に付けています。



## 茶 道 部

私たち茶道部は、1年生11名、2年生12名、3年生5名で、裏千家の高橋宗幸先生のご指導の下、毎週木曜日に活動しています。今年（平成28年）の6月には、大神神社で行われた第26回学生合同茶会で、立礼席を担当させていただきました。また恒例の文化祭のお茶会には、今年は約450名の方にお越しいただきました。日頃お稽古しているお点前を見ていただいたり、お客様をおもてなししたりする機会はなかなかないので、大きなお茶会はとても貴重な経験となりました。

私は日本の伝統文化に興味があります。お点前の作法はもちろん、季節の花や軸、お道具類などを細やかに体感できることが茶道の魅力だと感じています。和気あいあいとした雰囲気や、毎回のかわいらしい季節のお菓子も楽しみの一つです。これからも活動の中で、茶道の知識や人への気配りや立ち居振る舞いなど、様々なことを学んでいけたらと思います。（茶道部部长・吉村 実咲）







## 華 道 部

昨年度までは、翠華流の羽田先生に長年ご指導頂いていました。お花のことだけでなく、戦争中に苦勞されたお話も折りにふれてして下さり、昔の畝傍高校のこともよく知っておられた思い出深い先生でした。今年度より、新しく未生流の大堀先生にお稽古をお願いしています。部員数は今年は5名で、四季折々の花を様々な型で生けることを楽しんでいます。文化祭では、ここ数年大きな作品を生けています。全体のバランスを見ながら一つの作品を作り上げることで大きな達成感を味わいました。120周年の節目に当たって、今後はより積極的に、外部に活動内容を発信していけたらと考えています。

季節のお花で形・型を教わり、文化祭では共同作品を展示したりしました。お稽古では、同じ花材、形でも部員それぞれの表現で作品を生けるので、お互いに学ぶことができます。これからも上達するようにお稽古に励んでいきたいと思えます。  
(平成28年度部長・本多 里穂)



## 文 芸 部

文芸部は現在3年生が引退し、2年生5名、1年生4名の計9名で、中庭の部室で活動しています。数ヶ月に一度、部誌「みどり火」を自分たちで印刷・製本して発行することを主な活動としています。部室はとても狭いのですが、私たちにとっては、落ち着くことのできる空間で、そこでの語らいも大切な活動です。部室には、大先輩方が発行した「みどり火」のバックナンバーが保管されており（全部ではありませんが）、中には、手書きの原稿を印刷して製本したものもあり、お目にかかったことのない大先輩方の息づかいと、文芸部の歴史を感じることができます。畝高祭では、文化祭特別号を業者で印刷・製本して発行しています。最新のものは198号まで発行しています。発行した「みどり火」は、新南館3階の図書館の中央付近にある棚に並べてあります。皆さんに楽しんで読んでいただくことが、私たちの喜びですので、機会があれば、是非お手にとってご自由にお読みください。





## 音 楽 部

- **部員数** 3年19人 2年22人 1年10人 計51人  
(平成28年4月時点)
- **顧問** 藤井本加恵 銭谷千加子 辻 涼子
- **活動内容** 平成20年より、女声合唱団として活動を始める。

### 〔NHK全国学校音楽コンクール〕

平成24年から5年連続県大会金賞、県代表として近畿ブロックコンクールに出場。特に平成28年は近畿ブロックコンクールにおいて、奈良県史上初となる金賞を受賞し、近畿代表として、東京NHKホールで行われた全国大会に出場、優良賞受賞。

### 〔全日本合唱コンクール〕

平成23年から6年連続県大会金賞、県代表として関西コンクールに出場。

特に平成27年、28年には、一位金賞に輝き、関西代表として、奈良県勢初の全国大会に連続出場し、銀賞受賞。全国入賞の快挙を成し遂げる。

### 〔声楽アンサンブルコンテスト〕

平成24年から5年連続県大会金賞、全部門を通して二度のグランプリに輝く。

県代表として全国大会に出場し、特に、平成26年、28年全国大会では、銀賞入賞を果たす。

### 〔奈良県合唱祭〕

平成23年から6年連続『合唱祭賞』を受賞する。

### 〔全国高等学校総合文化祭〕

平成21年から毎年、奈良県選抜合唱団の一員として出場し、全国各地で演奏する。

### 〔定期演奏会〕

平成21年、本校文化創造館で第1回定期演奏会を開催し、翌年、大和高田市さざんかホール小ホールで行う。平成25年からは毎年、大ホールで開催している。

### 〔音楽鑑賞会〕

学校行事で様々なジャンルのアーティストの方々とコラボ演奏をさせていただいた。宗次郎（オカリナ）、西村由紀江（ピアニスト）、村松 健（ピアニスト）、チキンガーリックステーキ、アンリミテッドトーン等。

### 〔金鶏会総会記念演奏会〕

平成25年及び27年、11月3日の金鶏会総会后、OB、OGの方々と共に合唱合同演奏会を文化創造館で行った。

### 〔奈良県中学校音楽大会〕

平成28年、大和高田市さざんかホールで開催された、第64回音楽大会にゲスト出演させていただいた。

### 〔地域交流〕

橿原市制60周年記念式典（H28）をはじめ、橿原市



クリスマスコンサート（H27.28）、橿原市札の辻コンサート（H27.28）、秋川雅史コンサート（H28）等に、出演した。

### 〔メディア取材・出演〕

NHK総合『NHKのど自慢』TV出演（H21）予選を通過し4名グループ本選出場

毎日放送『ちちんぷいぷい』TV出演（H26）、取材のため、芸人たむけん来校

KCN放送『腹が減っては戦ができぬ』TV出演（H27）、取材のため、芸人コロコロチキチキペッパーズ来校  
NHK奈良『ならナビ』“輝け！一番星”のコーナーにTV出演（H27）

奈良テレビ『プロ野球中継』国歌斉唱で出演（H28佐藤薬品スタジアム）

NHK Eテレ『NHK全国学校音楽コンクール全国大会』生放送出演（H28）

地方月刊誌『ぱ～ぶる』の部活紹介に掲載される（H28）





## 書 道 部

書道部は、現在1年生5名、2年生5名、3年生9名の計19名で活動しています。全日本高校大学書道展や日本学書展などの各種公募展への出品、檀原神宮席上揮毫書き初め大会や奈良県高等学校書道展及び奈良県高等学校総合文化祭への参加など、様々な活動に参加し、日々作品制作に励んでいます。また、夏休みには奈良県高等学校夏期錬成会に参加し、書の技術向上を図っています。平成20～23年には全国高等学校総合文化祭へ選出され、大神神社や檀原神宮主催の書き初め大会では特別賞を受賞しています。

近年では、檀原市教育委員会からの依頼で、八木町で行われる愛宕祭の立山として書作品を展示させていただき、地域との交流も深めています。

畝高祭では、作品展示の他に、書道パフォーマンスを行っています。生徒が構想から衣装まで全てを手掛け、4m×6mの大きな紙面に音楽に合わせて元気よく筆を走らせます。平成28年度の畝高祭では、育友会の方々のご厚意により、パフォーマンスの様子をドローンで撮影していただきました。

書作品の制作を通じて、豊かな人間性が育まれることを願い、日々精進しています。



## ア ニ メーション 研 究 部

毎年、部誌『U・S・A Times』を定期的に発行している。発行時期は、4月（新入生歓迎号）、6月、9月（畝高祭特別号）、12月ごろである。

また、4月の部活動紹介では、部員制作のアニメーションを上映し、9月の畝高祭では、カラーイラストを制作している。

部室には創部の頃からの歴代部誌も保存されており、畝高祭で毎年展示をしている。







## 演 劇 部

本校の演劇部は長い歴史と伝統があり、過去に何回か近畿大会出場も果たしています。年度によって部員の増減があり、全く部員のいない時期もありましたが、2009年度からまた活発に活動を始めました。生徒たちは2009年度に演劇部を復活させた先輩のことを1期生と呼んでいて、2016年度入学生が8期生にあたります。この1期生から8期生までの繋がりは強く、公演のたびに先輩方が応援に駆けつけます。そのことが生徒たちの励みにもなっていて、「先輩に見せて恥ずかしくない作品作りを！」という思いで日々練習に励んでいます。

今年度は1年生6名、2年生7名、3年生7名という構成です。年間に校内外合わせて5～6回の公演があり、それぞれの公演に向けてほとんど1年間忙しく活動しています。奈良県高等学校演劇研究会に加盟していて、6月に夏季研修大会、秋にコンクール、3月に春季研修大会という大きな発表の場があります。特にコンクールは年に一回しかなく、地区予選で選ばれた6校だけが県大会に出場し近畿大会を目指すことができるので、部員たちも全力を尽くして取り組んでいます。毎年8月には吉野山で合宿を行い、大自然の中で密度の濃い練習を行っています。2014年度から3年連続で県大会出場を果たし、特に2014年度はさらに近畿総合文化祭（福井大会）にも出場することができました。また、校内においては畝高祭や文化部発表会で発表し、毎年2月には2年生が自分たちの引退公演となる自主公演をプロデュースしています。この自主公演では他校にも参加を呼びかけ、本校の生徒が公演そのものを運営するというもので、お互いに研修を深める良い機会となっています。自分たちの上演だけでなく、生徒たち自身が公演の企画立案から全体の進行役まで手がけています。まさに生徒たちの自主的な活動の集大成と言えます。この自主公演で2年生が引退してしまうので、実質2年弱の活動ですが、一つの舞台を経るごとに生徒たちは大きく成長してきました。演劇は役者、裏方、さらにはお客さんまでもが一体となって一つの世界を創り上げる総合芸術です。みんなで一つのものを創る難しさと面白さを感じながら、生徒たちは舞台での一瞬の輝きのために今日も頑張っています。



<2016年度「ひと夏の…」>



<2015年度「Vの理由」>



<2014年度「ぶぶ漬け食べていっておくれやす」>



## 写 真 部

### 10年間の活動実績

平成20年	近畿高等学校総合文化祭（近総文）	徳島大会参加	池田 早苗
平成21年	近総文	京都大会参加	城内 優海
平成22年	全国高等学校総合文化祭（全総文）	宮崎大会参加	池田 早苗
	近総文	奈良大会参加	阿形 尚
平成23年	近総文	滋賀大会参加	阿形 尚、上田 貴文
平成24年	全総文	富山大会参加	上田 貴文
平成25年	全総文	長崎大会参加	森川 玲於
	近総文	三重大会参加	駒田 晴美
平成26年	全総文	茨城大会参加	片岡 藍
	近総文	福井大会参加	久保 千尋
平成27年	全総文	滋賀大会参加	楠田 奈央
平成28年	全総文	広島大会参加	福山穂奈美 *全国大会にて奨励賞を受賞
	近総文	兵庫大会参加	大窪 佑季



全総文広島大会にて奨励賞受賞作品とともに



かしはらナビプラザでの写真展の様子



畝高祭の様子

### 活動状況

デジタルカメラの普及に伴い、比較的気軽に写真の撮影から印刷まで行うことが可能になったことから、近年部員数が増えており、現在も17名の部員が活動している。主な活動としては、奈良県高等学校文化連盟写真部会主催の合同撮影会、総合文化祭や各種行事への参加をはじめとし、畝高祭での写真展や、かしはらナビプラザでの単独写真展（平成24年より2年毎に実施）の開催が挙げられる。



## 吹 奏 楽 部

1年生20人、2年生22人、3年生16人の計58人（2016年8月現在）で、「HAPPY!」を合い言葉に、毎日「Let's Be Sounding!」のかけ声のもと、晴れの日も雨の日も元気いっぱい活動しています。

最近の年間の主な行事は、春4月の定期演奏会、夏8月の吹奏楽コンクール、秋11月の秋色コンサート、冬12月のクリスマスコンサート及び1月のアンサンブルコンテストです。これら5つの活動を軸に、その他校内での様々な演奏活動の他、小学校での訪問演奏や近隣のイベントでの演奏などにも積極的に参加しています。

コンクールコンテストでは、各大会で連続して金賞を受賞しています。昨年11月には、東京での日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場させていただき、優秀賞を受賞いたしました。

また、吹奏の特徴的な取組として、2010年から2014年までの定期演奏会では、『吹奏世界初演シリーズ』と題して、オリジナル曲を作曲家に委嘱し演奏してまいりました。

「トライアングルⅡ“ニュー・ステップ・オーバーチュア”」 〈菊一旭大 作曲〉

「プログレス・ビート～進化する鼓動～」 〈清水大輔 作曲〉

（全3楽章 プレーンより出版）

「天地の狭間～The Universe」 〈増田建太 作曲（本校卒業生）〉

「大地豊饒」 〈澤本文恵 作曲（本校卒業生）〉

「この優しく、暖かい世界～アンディ・カウフマンのための音楽」 〈清水大輔 作曲〉

（平成28年度第49回JBA『下谷賞』受賞）

### ◇コンクール・コンテストの受賞歴（過去3年間）

2014年	奈良県吹奏楽コンクール	金賞	奈良県アンサンブルコンテスト	銀賞
2015年	奈良県吹奏楽コンクール	金賞	奈良県アンサンブルコンテスト	金賞
2016年	奈良県吹奏楽コンクール	金賞	奈良県アンサンブルコンテスト	金賞
	日本管楽合奏コンテスト全国大会出場（優秀賞）			



第22回日本管楽合奏コンテスト全国大会  
2016年11月 東京 文京シビックホール  
優秀賞受賞

### ◇定期演奏会等でのプロプレイヤーとの共演

2014年5月 第25回定期演奏会 T-SQUAREのサクソ奏者の伊東たけし氏と共演。

2015年5月 第26回定期演奏会 T-SQUAREのサクソ奏者の伊東たけし氏、  
ドラム奏者の坂東 慧氏らと共演。

2016年4月 第27回定期演奏会 世界的ドラム奏者の神保 彰氏と共演。

2016年6月 ムジークフェスト2016 あおぞら吹奏楽 T-SQUAREの伊東たけし氏、  
坂東 慧氏らと共演。

2017年5月 第28回定期演奏会 熱帯JAZZ楽団の藤陵雅裕氏と共演。



第26回定期演奏会 2015年5月  
ゲスト 伊東たけし (Sax&EWI)  
坂東 慧 (Drums) 田中晋吾 (Bass)



第27回定期演奏会 2016年4月  
ゲスト 神保 彰 (Drums)





## 解 放 研

この10年間、解放研では部員のいない年もあったものの、概ね数名の部員で活動してきました。これまで、メンバーによる日常の話し合いの他、校内の「ヒューライツフォーラム」への参加や、フィールドワーク（天理柳本飛行場跡での朝鮮人強制連行の研修、旧日本軍が建設した屯鶴峯地下壕跡の見学など）等を行い、その成果を、畝高祭での展示や、機関紙『鉄鎖』に発表してきました。『鉄鎖』は現在、第196号まで発行されています。また、毎年3月に開催される「全校人権教育学習会」の進行・意見発表などを担当してきました。

さらに、奈良県高等学校解放研等連絡会議（高解研）の活動である「高校生・ヒューマンフェスティバル」（2008年度まで開催）や、高解研研修・交流会（年2回開催）、夏期研修会等に参加し、さまざまな人権問題についての研修や、他校生との交流を続けています。

10年の間に、解放研の活動テーマは、部落差別の問題から、東日本大震災と原発・放射線の問題、多文化共生、セクシュアルマイノリティの人権、思想・宗教の「古典」をめぐる対話など、さまざまな課題に広がってきており、今後も意見交流や発信を続けていきたいと思っています。



## 新 聞 部

年に2回『畝高新聞』を発行しています。ここ10年は、部員がおらず生徒会役員が新聞を発行している時期もありましたが、3年前より部員が11名と急激に増えました（現在は3名）。そこで、学校説明会等の時期に合わせて、『畝高新聞』の号外を発行し、畝傍高校の出来事をタイムリーにお伝えできるようにしています。また昨年度は、インターハイ新聞を写真部や他校の新聞部と共同で発行しました。その取材の様子について、読売新聞の高校生新聞の取材を受けました。

3年前より我が校はSGH指定校となり、大きな変貌を見せました。当新聞でも「SGH特集」のページを組み、SGHでの活動の様子を報告してきました。今後も、畝傍高校の「今」を発信し続けます!!





## ESS部

ESS部はALTの協力の下、週1回の活動の中でリスニングとスピーキングを中心に練習を行っています。歴代のALTが放課後の活動を進んで行ってくれたお陰で自ずと部員のリスニング力が強化され、学年が進行するにつれてALTとのコミュニケーションがスムーズになっていきます。活動内容はゲーム形式で英語を使ったコミュニケーションを行ったり、英語字幕で洋画を見た後、互いに感想やその映画の主題について英語で話し合ったりするものが中心です。昨年度は英語ディベートにも挑戦し、より論理性のある発信力の強化も目指しています。

毎年9月には奈良県英語教育研究会主催の英語弁論大会に参加し、平成24年、25年、27年、28年には出場者がいずれも見事奈良県1位を獲得し近畿大会出場を果たしました。また他の部員も同じく奈良県英語教育研究会主催のイングリッシュフェスティバルに参加して他校のALT、ESS部員と積極的に交流をしています。これからもより多くの機会に英語を使ったコミュニケーション活動をして、論理的な発信力を身に付けていきたいと思えます。



第67回奈良県高等学校英語弁論大会  
(平成28年) 第1位



文化部発表会 (平成28年)



## 小倉百人一首かるた部

平成19年秋に有志が集まって活動を始めた。本格的に活動を始めた平成20年度には、春の奈良県大会で団体優勝をし、第30回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会への出場を果たすとともに、予選リーグを1位で勝ち抜け、初出場にして全国ベスト8という快挙を成し遂げた。その後、同好会を経て、現在は部として活動をしている。

初出場の後、全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会出場は計4回を重ね、毎年、夏の全国高等学校総合文化祭、秋の近畿高等学校総合文化祭へ多くの奈良県代表選手を輩出している。

今年度は、春の奈良県大会では準優勝となり、全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会への出場を果たすことはできなかったが、夏の全国高等学校総合文化祭には2名、秋の近畿高等学校総合文化祭へは6名の奈良県代表選手を送りだした。現在は3学年で30名を超える部員が日々練習に励んでいる。





## フ ォ ー ク ソ ン グ 部

現在、2年（男子15名、女子20名）、1年（男子6名、女子27名）で活動しています。コンサート活動としては、年間4回の定期演奏会を文化創造館にて行い、天理楽器のホール音蔵にて2回、檀原文化会館小ホールで1回開催しています。檀原市主催の音楽イベントにも、アコースティック編成で参加しています。週4回の限られた活動時間の中で、先輩後輩の垣根なく教え合いながらも、各バンド間で切磋琢磨しながら演奏技術の向上に励んでいます。近年では、檀原文化会館にて3年生の引退ライブ「音楽一揆」を新たに始め、自分たちの引退を自分たちの手で企画運営していくことで大きな成長の場としています。また校内の活動だけでなく、他校の軽音楽部との交流も行っており活動の幅を広げられるよう努めています。



音楽一揆（平成28年）



定期演奏会

## 美 術 部

美術部は1年生4名、2年生9名、3年生7名、合計20名で活動しています。絵画作品だけでなく、デザインや立体作品など幅広い表現方法を手がけ、自分たちの表現を探しながら毎日楽しく制作に励んでいます。

作り上げた作品は、奈良県ジュニア美術展や奈良県総合文化祭美術・工芸部会展、アートグランプリなどの作品展やコンクールに出品しています。これらの大会での入賞を目指して、日々作品と向かいあっています。

また近年は、畝高美術部OBOGの皆さんが2年に一度開催されている「畝美会展」にも出品させていただいています。他にも、愛宕祭の立山を制作し、八木札の辻交流館に展示させていただきました。地域の方々にも美術部の作品を観ていただく機会が増え部員一同とても喜んでいます。作品を通しての交流を行いながら、表現の意味と可能性について生徒一人ひとりが模索してくれています。様々なことに感動し、「美」を発見できる眼と感性を身に付けられるように、これからも努力をし続けていきたいと思っています。







## ボ ラ ン テ ィ ア 研 究 部

本年度は、ハンドボール部のメンバーとの重複がありますが、男子25名、女子26名で活動しています。おもに、月曜日の放課後と土曜授業日に、通学路清掃を実施しています。他に不定期の募金活動も行っています。

本年度の畝高祭では、国境無き医師団への募金活動を実施し、約5万円のご厚意を頂戴いたしました。また、4月の熊本地震の震災の際にも、義援金活動を行いました。



## 囲 碁 ・ 将 棋 部

同好会発足以前から案内していた囲碁と将棋の県大会に、2008年、囲碁で1年生男女各1名が出場し活躍、秋には2名とも近畿高等学校総合文化祭に進出することができた。女子生徒は近畿大会でも上位となり、2009年3月全国高校囲碁選抜大会に出場した。彼女は2・3年生と連続して夏の全国高等学校総合文化祭に出場し、3年生の時、2010年には都道府県対抗団体戦で奈良県チームの一員として勝利に貢献、5位入賞を果たした。この年、囲碁の強い女子が入学し、夏の文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会において、女子団体戦4位に入賞した。この団体戦は同一校の3名で戦うため、2人では出場できない。強豪2人の呼びかけに応じ、第三のメンバーに加わったのはソフトテニス部の選手だった。彼女は兼部をして一から碁の勉強をし、その後も近畿・全国大会で畝傍チームの一翼を担った。将棋でも2009年に、女子1名が県予選を経て全国高等学校総合文化祭に出場した。

このような実績をふまえ、囲碁・将棋を熱心に行う選手が規定の人数に達した2011年4月より囲碁・将棋同好会が発足し、2014年4月に部に昇格した。その間、将棋では同好会発足の年の入学者である男子2名が2012年の近畿高等学校総合文化祭に出場し、囲碁では本年に至るまで毎年切れ目なく全国大会出場者を輩出している。





## 歴史部

古い伝統をもつ歴史部も、長らく部員数の減少に苦しんできましたが、本年度は部員が9名（男子7名、女子2名）となり、精力的に研究活動に励んでいます。校外研修も積極的に行い、研究したテーマを毎年畝高祭で発表してきました。近年の主な研修内容と発表テーマは以下の通りです。なお6月には、第5回 高校生対抗 日本史クイズ選手権大会にも出場し、上位進出をめざして勉強会も実施しています。

平成25年度 今井町、「大河ドラマ『八重の桜』特別展（京都文化博物館）」、新島襄・八重旧邸、同志社大学；発表テーマ『今井町、熊本城、新島襄と八重 研修報告』

平成26年度 八木札の辻交流館、坂本龍馬の書簡講読学習会、高松塚古墳、中尾山古墳、大和郡山城址、奈良大学歴史文化セミナー；発表テーマ『高松塚古墳 研修報告』

平成27年度 大阪城、興福寺、元興寺、ならまち、飛鳥資料館『キトラ古墳と天の科学』展、万葉文化館、平城宮跡、平城京歴史館；発表テーマ『大阪夏の陣から400年 大阪城 研修報告』

平成28年度 京都鉄道博物館、東大寺、大阪歴史博物館、京都文化博物館、霊山歴史館；発表テーマ『近代日本鉄道の発展 京都鉄道博物館 研修報告』





創立120周年記念碑



## 編集後記

このたび、奈良県立畝傍高等学校創立120周年記念誌を発行できますことを心より御礼申し上げます。

さて、記念誌の編集作業も大詰めを迎えた平成29年4月22日（土）に、120周年記念碑の除幕式が挙行されました。この記念碑は本校卒業生である打谷久義様のご協力によって制作され、金鶏会より寄贈していただいたもので、正門を入ってすぐ左手に建立されています。

金鶏会会長堀井良殷様はその除幕式のご挨拶の中で「打谷さんは、まさしく石に心を刻んでこられたお人である。」と仰っていました。120周年を迎えた畝傍高校はこれから先、「進化する伝統」とともに130年、140年、150年とさらなる歴史を刻んでまいります。長き道のりも肝心なのは最初の第一歩であり、どんな困難があっても一歩ずつ踏み出すことの大切さを、この記念碑は私たちに教えてくれているように思われてなりません。これからも畝傍高校の「道標」として、畝高生を支え見守ってくださるものと感じております。

お手に取っていただきました、この奈良県立畝傍高等学校創立120周年記念誌も、多くの方々のご協力によって完成することができました。本当にありがとうございます。なお、記念誌の発行は平成29年度になりましたが、原稿の執筆依頼は平成28年度にお願いいたしました。そのため、年度の表記については、寄稿していただいた原文のまま、掲載させていただいておりますことをご了承ください。

最後になりましたが、寄稿していただきました皆様、ご多忙の中、畝傍高校への想いや願いを綴っていただき、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。皆様方のご発展を祈念いたしまして、編集後記とさせていただきます。

平成29年5月1日

奈良県立畝傍高等学校創立120周年記念事業実行委員

### 奈良県立畝傍高等学校 創立120周年記念誌

発行日 ●平成29年5月25日

編集・発行 ●奈良県立畝傍高等学校創立120周年記念事業実行委員

印刷 ●東洋印刷株式会社



